



鈴木 勝彦 議員

令和3年度予算編成に向けた市政クラブの政策提言について

問 令和3年度予算編成方針について。

答 新型コロナウイルスの影響の長期化を見据え、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、「新たな日常」といった社会変容に対応し、「新たな日常へのチャレンジ予算」と位置付けて予算編成に臨む。

「新たな日常」といった社会変容に対応し、「新たな日常へのチャレンジ予算」と位置付けて予算編成に臨む。

問 基本的な考え方について。

答 (1)「新型コロナウイルスの影響への対応」では、市民の安心安全を最優先に影響を的確に把握した上で、スピード感を持って対応する。(2)事業手法の多様化により、事業を見直し財源確保を図ると共に、年々、上昇傾向にある経常的経費の削減に取り組む。(3)「重点取組事項への財源配分」では、令和3年度に実施予定事業の方向性を、市長、副市長と意見交換を行い、重点的に取り組む事業や新

型コロナ感染症拡大の影響に対する事業に、優先的に予算配分を行う。

問 具体的な事業や施策内容は。

答 重点取組事業4つを中心に、予算編成を行っている。

(1)新型コロナウイルス感染症の対策事業では、ワクチン予防接種業務に関する経費や避難所の運営に必要な感染症対策用物資の購入費。(2)GIGAスクール構想に基づいてICT教育と学校トイレの洋式化の推進や定型業務である財務に関する業務の合理化を図る。(3)高取・吉浜小学校の大規模改造事業の実施設計や、体育センターの解体、市営湯山住宅の屋上防水改修工事。(4)待機児童対策では、一部の家庭的保育事業を小規模保育事業に切り替え、3歳未満児の定員の拡充を考えている。

令和7～8年度までは、特に厳しい財政運営が見込まれる。コロナ禍において、市民生活や地域経済を支えるための必要な事業、まちづくりや人づくりに資する事業への投資、公共施設老朽化対策など、限られた財源のなかで、メリハリをつけて、4つの重点取組事業を中心に、予算編成を行っている。



黒川 美克 議員

高浜市公共施設あり方計画について

高浜市役所本庁舎整備事業について

問 光熱水費については、リース費用より減額したが、どのぐらいのメリットが出たのか。

答 年間で500万円ほどのメリットが出ている。

問 庁舎のリース期間の見直しと維持管理・運営費を市が直接支払いにする考えはないか。

答 リース期間20年については、AIやICTといった情報技術の進歩、デジタル化による行政サービスの在り方を見越して時代の状況に柔軟に対応するほか、一般的に設備の耐用年数が15年から20年であること等を踏まえて設定した。

維持管理・運営を市の直営に戻すことについては、事業者は全体事業費の中で施設整備費や維持管理運営費を調整して提案し、その提案に基づき契約している。契約の一部を破棄することにもなりかねないので直営に戻す考えはない。

勤労青少年ホーム跡地活用事業について

問 指名競争入札にて9,666万円で落札した業者がいたにも関わらず、負担金精算金額では1億6,070万4,000円、委託料では3,597万6,854円の合計1億9,668万854円、1億円も高くなった理由は。

答 当初積算した金額、入札金額、また協定書の額、協定後の支払金額、協定書締結に至る経緯などの質問は、裁判所に答弁をしたいと思っているので、この場での答弁は差し控える。

問 負担金の積込み業務の立米数は。

答 見込み数量が3,350立米、実績数量が2,675立米。

問 積込み業務量は2,675立米だが、どのように検査をしたのか。

答 実績の報告書類、現場から廃棄物の土がなくなっていることを確認した。

問 換算係数は、委託料は1.874、負担金は2.00となる。換算係数がなぜ違うのか。

答 テニスコートのすき取りとプールと建物の建設から出た土ということで、換算係数が違うということ。